

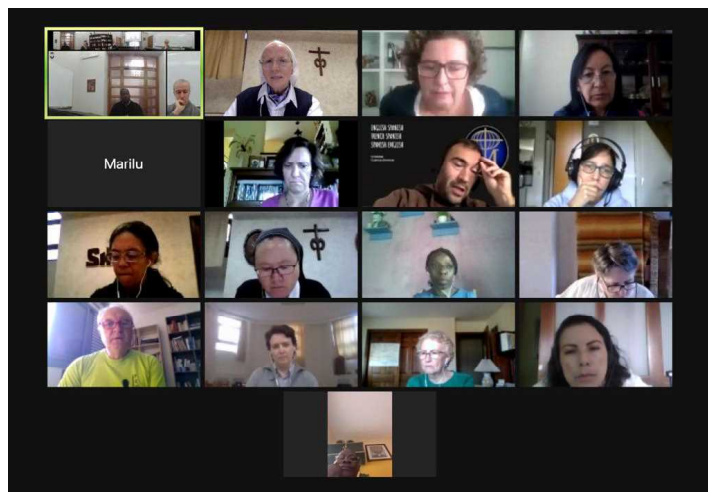


# Via Latina 22

2020年12月 295号

## 総本部よりのお知らせ－マリア会

### マリアニスト家族世界評議会 (WCMF)



11月7日と8日の週末に、マリアニスト家族世界評議会のバーチャル会議が行われました。

この評議会は、FMIとSMの総長評議員会、アリアンス・マリアル(AM)評議員会、そしてMLCの国際チームによって構成されています。この評議会は通常年1回ローマで3日間に渡り行われます。本年の特別な状況により、ZOOMによる2日半の会議を余儀なくされました。

時間が制限されていたので、私たちは協議事項を減らし、各枝からの通常報告書を会議が行われる前に出席者全員に送付しました。こうして、会議は昨年各枝での最も重要な出来事について簡潔な発表で始まりました。

会議の中心テーマは、(2019年の評議会で承認された)“カリスマ家族としてのマリアニスト家族”の文書に基づく「私たちは1つのカリスマ的家族であること」についての考察と、マリアニスト家族の共同体やメンバーから送られてきた考察やコメントについて熟考することでした。

皆さんは関係する課題について更に詳細なメッセージを既に評議会から受け取られたと思います。

私たちのカリスマ、すなわち私たちはマリアニスト家族であるという大変重要な特徴を深め続けるよう、私たちはVia Latinaから皆さんに要請します。

---

## 拡大総長評議員会のバーチャル会議



11月19日と20日の午後、総長評議員会のメンバー4名とゾーン議長5名は、2日間にわたる会議と分かち合いをしました。“拡大総長評議員会”と言うこの特別な組織は、「生活の規則」7-61の条文によれば、毎年、“マリア会内の情報の交換、長期計画の立案、そして活性化と連携を強化するために”開催されます。

会議の間、私たちはこのCovid-19の期間におけるマリア会の状況に注意を払いました。会員たちと彼らの協力者たちがこの新しい状況、全く予期しない事態に直面するために示した適応と創造性の大変な努力について、私たちは一人ひとりに賛辞を贈ります。またこの会議は、年齢や健康上非常に弱っている会員たちについても話し合いました。私たちは皆さん全員に私たちの感謝の意を表明しなければなりません。私たちの共同体や事業を越えて寄せられる要請もまた同様に、私たちにチャレンジし、私たちの注目を要請しています。

また私たちは、前回総会の勧告の影響、特にマリアニスト家族としての私たちの生活、あるいは、私たちのカリスマを深めることへの影響、ついて評価しました。これらは、実を結ぶために私たちの間で引き続き鳴り響かせなければならない招きです。国レベル或いは地域レベルのマリアニスト家族評議員会の発展や強化は、私たちに大きな勇気を与えてくれます。

私たちは進行中の総長評議員会の計画と2021年7月にローマで予定されている総指導者会議の展望について情報を分かち合いました。この総指導者会議は、拡大総長評議員会から数か月を経て豊かになった経験を携えて、これらのテーマに戻る機会となるでしょう。

この年次会合は私たち総長評議員とゾーン議長全員にとって重要です。この会議は私たちがビジョンと活動の一つにするのを強化します。この手段を通して、私たちはまたゾーンの機能を促進させたいと希望しており、このゾーンは、マリア会の行政単位間の協調の強化にとって、非常に興味ある段階を示しています。この行政単位間の協調は増々必要になっています。

## 世界規模の教育協定に関する男女総長連合会の 教育委員会年次セミナー

総長連合(男子)と総長国際連合(女子)の“教育委員会”のメンバーとして、マリア会教育局長が年1度この委員会のセミナーに参加します。今年はパンデミックという状況のために、セミナーはオンラインで行われ、各総本部に対し参加人数を何名か増やすことができると伝えました。これに従いMaximin Magnan士は異なる大陸から選んだ5名のマリアニストを伴いこのセミナーに参加しました。このセミナーは2020年11月12日から14日にかけて開催され1日5時間の勉強会でした。

全体では68ヶ国から、修道者と一般信徒を含む男女700名近くが、教会の多様な教育的伝統に由来する想像しうる限りの多様な文化や背景を携えて、私たち教育者としての召命について、カトリック学校の視点から考えを分かち合いました。



教皇フランシスコの“世界規模の教育協定を再建しよう”との呼びかけに対する反響は、豊かな考察と私たちの世界をより良くするために働き続ける情熱を呼び起こしました。技術的サポートが主な課題でしたが、そのサポートによって皆が予定通り参加出来ました。技術的なインフラ、計画チーム、通訳者(フランス語、英語、イタリア語、そしてスペイン語)、そして司会者と調整役の仕事はかけがえのないものでした。

このセミナーの終わりに、出席した6名のマリアニストがZOOMで会議を行い、考えと考察を交換しました。教育に携る修道会として、この協定の関心事は私たち全員にチャレンジしており、これからの数週間、数か月にわたって、私たちはこの協定の関心事に然るべき注意を払い続けます。

---

## “マリアニストの聖性” 委員会

この2ヶ月間に、総長評議員会の要請に応じて、Via Latinaの4名の兄弟たちが“マリアニストの聖性”と名付けられ委員会を組織しました。なぜでしょうか？それは、既に列福されあるいは列福されようとしている14名一人ひとりのマリアニスト聖性を広め知らせるためです。



左より：Antonio Gascón師、Miguel Ángel Cortés師、  
Eddie Alexandre師、Frédéric Bini士

これら聖人たちは私たちに勇気づけ、キリスト教的生活の道へ導くために神から私たちに遣わされました。この助けを失わないようにすることが重要であり、それが私たちマリアニスト家族に係る場合は特にそうなのです。列福や列聖は、何にもまして、私たちがその取り次ぎの力により頼むこの証し人への人々の献身と忠誠心の成果であり、その取り次ぎの力が恵みと奇跡をもたらします。

この委員会の4名のメンバーは次のとおりです：チームをリードするEddie Alexandre師、列聖請願者のAntonio Gascón師、Frédéric Bini士、そしてMiguel Ángel Cortés師。

彼らの働きは、これら証し人たちが私たちの生活と司牧活動において占めることができる場を私たちに思い起こさせることです。Via Latinaの毎月の記事は私たちがこれら証し人たちを思い出すよう既に助けてくれています。Eddie Alexandre師は近く各行政単位にコンタクトし、そこから1名を選び、彼が同僚の間でこのような役割を果たし、ローマのチームと共にネットワークを作れるよう協力を要請します。キリスト降臨3千年期が始まるにあたり、教皇ヨハネ・パウロ2世は“聖性の教育学”を広げるよう私たちに求めました；教皇フランシスは“あなたの傍にいる聖人たち”を意識するよう私たちに呼びかけています；私たちマリアニストの歴史に登場した証し人たちがこの呼びかけに応えるよう助けてくれますように。

---

## “すべての人の兄弟であること”



《Fratelli tutti》、これは教皇が私たちに与えた挑戦です。私たち会員の何人かの生涯を注視すれば、私たちは彼らが《全ての人にとって兄弟》であったことが分かります。Miguel Ángel (Michel) Quiroguáは彼らの中の1人の実例です。彼は1972年、コロンビア人として生まれ、1998年9月18日にアトラト河で準軍隊によって殺害されました。約40名の人々が2艘のボートに乗ってある村の守護の聖人祭を楽しみ祝うために行くところでした。不当な身元調査でした。最も貧しい者たちを守るため、ただ一言を発したため、その民兵のリーダーがMiguelの心臓に銃を一発放ち、

Miguelは即死しました。

Miguelは、この“皆が兄弟”の反対者である準軍隊のリーダーがしている事を良く知っていました。Miguelは全ての人の近くに居て、腐敗と脅迫に直面して真実を守るために、社会科学の学士号を得たばかりでした。その上、彼は若くそして信心深い人でした；彼は1992年12月12日にマリア会にて初誓願を宣立しました。準軍隊の民兵にとってMiguelは実に危険人物で、邪魔者であり、彼らはMiguelを排除せねばならなかったのです。

“全ての人の兄弟”となるのは危険なことです。Miguelは自分の生命を捧げました、彼は準備ができていました、そして彼は真の命を生きていました、毎日、聖体拝領後に彼が唱えていた祈りです：

主イエスよ、  
あなたの命を私の命と一つにしてください、  
私の命をあなたの命と一つにしてください、  
私たちの命を他の人たちの命と一つにしてください、  
そうすれば、私は復活された方の足跡をたどり、  
マリアニストの生き方に従って  
貧しい人々や排除された人々に奉仕して、  
分ち合い、より人間らしくなる方法を知るようになり、  
また、正義、命、そして解放を通して  
私たちの父である神の国を  
少しずつこの世界に打ち建てる方法を知るようになります。アーメン



### FMI総長からの新たな書簡

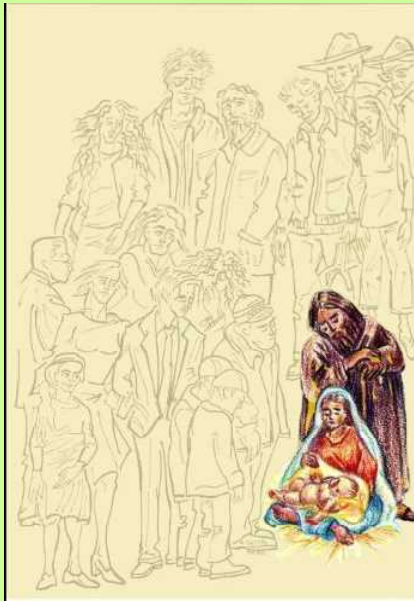
FMI総長、シスターFranca Zontaは興味深い回章をFMIのシスターたちに書き送りました。それは“行動様式の問題”と言う表題で、最近の教皇回勅、Fratelli Tuttiの背景の中で書かれています。それは12月8日、FMI保護者の祝日の機会に発表されています。

下記をクリックして異なる言語での書簡を読むかダウンロードをすることが出来ます：

[英語](#)   [スペイン語](#)   [フランス語](#)   [イタリア語](#) で。

(注：#295の日本語版では上記をクリックしても直接リンクされません。)

[marianist.org](http://marianist.org) (Family⇒Society of Mary⇒Our Publications⇒Via Latina⇒#295)  
からお願いします。)



### クリスマスの挨拶

総本部共同体とシャミナード国際神学校共同体は全ての兄弟姉妹たち、  
彼らの協力者たち、そして彼らの家族に対して  
ご生誕の喜びと幸多い新年のご挨拶を申し上げます。

### 最近の総本部通信

- 訃報：33-34号
- 11月16日：「霊生局長、Pablo Rambaud師から、初期養成に関する意見聴取（2020年6月）に応えた人へ3か国語で：「応答のまとめとこれからの仕事の提案」
- 11月27日：「マリアニスト家族世界評議会（WCMF）からのメッセージ」を全マリアニスト修道者に3か国語で送付

### 総本部の日程

- 11月26～12月6日：霊生局長、Pablo Rambaud師と教育局長、E. Maximin Magnan士、マラウイ（東アフリカ地区）を視察訪問。

### メールアドレス変更

Philippe Dudon師（FR）：[phil.dudon@gmail.com](mailto:phil.dudon@gmail.com)